

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チェリーヒル 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2025年12月20日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	0
○従業員評価実施期間	2025年12月20日		～ 2026年1月31日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だとと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭だけでなく、相談支援事業所や学校等と積極的に情報共有を行っている	法人内に相談支援事業所があるので、細かい情報共有がスピーディーに行える。相談支援員が支援の様子や子どもの様子を観に来てくれるのでその時その時の子ども達や保護者の方の状況に合わせた支援が行いやすい。法人内にヘルパー事業所、短期入所の施設があるので状況に合わせて支援のコーディネートが行える	法人内に生活介護施設や就労支援事業所・グループホーム等があるので保護者の方達が将来の見通しが持てるよう見学会や相談会を行っていききたい
2	活動プログラムは子ども達の成長や集団特性に合わせて、定期的にスタッフで話し合い見直しを行っている。子ども達のやりたい事や作りたい物等聞き取りながら計画している	同じ内容の活動プログラムが翌月、翌々月続いてしまわないよう2・3か月間を空けてプログラムを組み立てている。複数の職員が毎月交代をしながら工作・レク・おやつ作りの3つに分かれ内容を考えている。日々の生活の中で子ども達に意見を聞き活動内容に充実させている	法人内に施設が複数あるので、年齢の壁を越えた関りができる良い機会なので企画していききたい。活動プログラムの内容充実の為外部で行っている研修等に積極的に参加していききたい
3	社員・パート等立場に関係なく意見を取り入れやすい環境であり経験年数の長い職員集団なので障害への理解やこれまでの経験を支援に取り入れられたり、子ども達に寄り添った視点で支援環境を整えられる	子ども達の意見や意思をどうしたら汲み取れるのか、ご本人が発信できるのかを経験豊富な支援者が子ども達それぞれの特性に合わせて引き出している。また、社会で生活するために妥協点をどう探すのか交渉の仕方等一緒に考えながら提案している	まだまだ対応しきれていない部分もあるため、研修や障害特性の理解を深める機会を継続的に設けていく必要がある。同時に支援者一人一人の力量を高めるため支援に関するカンファレンスを定期的に行っていききたい

	事業所の弱み(※)だとと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の交流や活動が少ない	子どもの安全を重視すると第三者との交流は慎重にならざるを得ない。第三者との関りを望まれない保護者の方が一定数みえるのでバランスを取るのが難しい	安全確保と個人情報保護をしながら、できるところから地域関係機関と連絡を取り合い必要な支援の方策を提案していききたい
2	支援終了後に職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有できていない	帰りの送迎の関係や、正規・非正規の勤務終了時間の違い等により支援終了後に時間を設けることができない。正規職員同士・非正規職員同士、退勤時間が同じ職員同士で振り返りや気づいた点等を共有している	緊急で共有が必要な問題が起きた時はグループline等で情報共有をしている。情報共有ノートの書き込み&チェック、グループline、保育前のミーティングに重点を置き職員間のコミュニケーションを引き続きとっていく。非正規職員の勤務時間の見直しも考えていききたい
3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされていない箇所がある	施設自体が福祉施設として建てられた建物ではないので、バリアフリーとは言えない作りになっている。長年身体不自由の方の利用がないので必要に迫られず対応できていない状態	後付けでバリアフリー化できる部分(手すり等)は改修工事をしているが、まだできる部分がないか職員間で定期的に話し合いをしていく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 チェリーヒル

公表日 2026年 2月 1日

利用児童数

2

回収数

0

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				1		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				1		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				